



ハインリヒ・ペスタロッчи
ディオク画（1804）

第一は、なんといつても今日のわが国における教育の状況である。教育の荒廃が叫ばれ、しかし他方、隠れた所で、優れた教育を地道に実践し、「真教育」の原点を示している実践家の存在もまた事実である。ながく、多くの実践家を輩出してきた本学部にとって、このような個人や団体を搜し出し、顕彰することによって、これらの人々を勇気づけ、その活動を社会に広め、それによつてこれらの活動を活性化させることは、極めて重要なことと考える。同時に、それを通じて、広く教育研究に携わるわれわれに教育と研究に対する厳しい省察の波動を惹起せずにはおかないのである。このように混迷するわが国教育の現実に対して、「教育の原点」を示すことによつて、教育荒廃のこの現実から立ち直るべきになればと考え、この賞を特に考えた。

真教育の原点の提示

広島大学教育学部は、今回、財團法人広島地域社会研究センター並びに中国新聞社の後援を受け、今日、わが国の極めて困難な教育状況の中で、優れた教育実践をおこなつていている個人あるいは団体を顕彰するため、ペスタロッчи教育賞を創設した。

今回、本学部が本賞を創設する趣意として、おおよそ次の四点指摘されようか。

ペスタロッчи教育賞の創設について

教育学部 教育哲学・教育史講座 小笠原 道雄

第二は、真教育の象徴としてのペスタロッчиである。

一八一七、それは、「民衆教育の父」であり、教育の実践家として、子どもへの限りない愛情と慈しみを身をもつて示した教育者であった。同時に、多くの困難を克服しておこなわれた教育実践から編み出された教育思想、教育理論は、たんに、十八世紀の所産としてはなく、近代教育思想の原則を示すことによつて、つねに「新教育」いや「真教育」の象徴ともなり、今日に至るまで世界の教育を動かし、教育の原点を示すものと考えられている。

基本的には、子どもと教育者の、いわゆる教育的関係に対する深い思索であり、実践である。ペスタロッчиは「子どもたちとの（子どもたちに対するではない！）わたしの関係」が道徳的行為を結果としてもつことができる。そのため、その関係そのものが道徳的である場合、ひとつの道徳的生活形式を示していける場合に限られるというのである。ペスタロッчиはそのひとつの中最小かつ不可欠の具体的な社会関係としての「家庭」こそが、今なおこの生活形式の本質的諸要素を代表的に提示する力をもつものであると考えた。このような要素を持つ関係においては、支配的諸関係

今ペスタロッчиなのか？

全体は否定される。それをペスタロッチーはユートピア的に「彼らは世界も忘れ、シユタントも忘れて、わたしとともにおり、わたしは彼らとともにいた」と表現している。

ペスタロッチー運動と 広島大学

第三は、ペスタロッチー運動に関する本学の伝統である。大正十年以来、広島高等師範学校から興つたペスタロッチー運動は、教授・学生・卒業生が一体となって、日本の教育と教育研究に真の生命を賦与しようとするいわば一種の教育運動として展開し、毎年二月十七日ペスタロッチーの命日にその功績を讃え、その精神を今日に生きようとして「ペスタロッチー祭」(当初「ペスタロッチーの夕」)に結実した。だが、この記念祭も昭和四十七年の第五十一回をもって中断に至っている。この間、昭和三十年の第三十四回ペスタロッチー祭に、本教育賞の前身でもある、「ペスタロッチー賞」が創設され、ペスタロッチー精神、ないしペスタロッチー教育に通ずる人々にその賞が授与されることになつた。しいのみ学園園長昇地三郎氏、玉川学園長小原國芳氏、小学校長東井義雄氏、国語教育の大村はま氏等々は記憶に新しい所であるが、本賞も昭和四十一年、第十二回の授与(庄原さくら学園園長、白山

千鳥氏)を最後に消滅した。従つて、今回の教育賞は、「ペスタロッチー賞」の精神的復活といつてよいものである。

統合移転にともなう 教育学部の旗印として

第四の趣意として、本学部の西条移転に伴う意義が指摘される。平成元年の新キャンパスへの移転は、文字通り、統合移転ということで、旧広島高等師範学校及び文理科大学を母体とする東千田校舎と旧広島女子高等師範学校を母体とする福山分校との統合であり、ここに長年の念願であった両校舎は新教育学部として一体化した。その旗印としてのペスタロッチー教育賞なのである。統合移転の責にあたられた片岡徳雄前学部長のご提案とその創設に至る諸難題の克服によつて、初めて本教育賞が可能となつた。

かつて、わが国でも、大正年間を中心にはれほど教育に関わる人々を魅きつけてきたペスタロッチーが近年に至つて急速に忘れられ、それと符合するかのように、教育の荒廃が現実のものとなつてゐる。「真教育」の原点を問う時、不死鳥のように蘇り、つねに繰り返されるのが「ペスタロッチーに還れ!」といふ言葉である。

ペスタロッチーの実践、思想、理論には、今日の教育荒廃を克服するための方途を示す

力があると確信される。ペスタロッチーの精神を「教育」の原点として捉え、優れた教育を実践している人々を顕彰することは正に今日の教育にとつて「地の塩」となろう。



シユタントの孤児院のペスタロッチー(K. グローブ一八七九)一七九八年一二月、ペスタロッチーは悲惨な戦いで親を失った多くの子どもたちの監督者として単身シユタントに赴いた。この地から彼の感動的な教育実践が始まつた。